令和元年７月１６日

地方独立行政法人山梨県立病院機構
理事長　小俣　政男

# 平成３０年度の決算と今後の取り組み

平成３０年度の決算が整いましたので、決算の状況及び今後の取り組みについてご報告いたします。

## Ａ）決算の状況

平成３０年度の経常利益は１７億４，４００万円、純利益は過去最多となった前年度とほぼ同水準の１７億３，０００万円となりました。

また、第２期中期計画と比較すると、経常利益は、１１億９，２００万円の増、純利益は１２億２，４００万円の増となりました。

## Ｂ）病院の現状と展望

### ①　救命救急医療体制の充実・強化

中央病院の救命救急センターでは、２４時間体制で３次救急患者を受け入れると同時に、２次救急患者など必ずしも救命救急センターの対応症例でない患者さんについても幅広く受け入れています。

また、本年４月には「高度救命救急センター」の指定を受け、より高度で専門的な救急医療を提供できる体制を整備しています。

### ②　がん医療への取り組み

中央病院のゲノム解析センターにおけるゲノム解析件数は、前年度と比べて６５．５%増の１，９８３件と大幅に増加しました。

また、東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として、平成３１年２月に先進医療Ｂ「遺伝子パネル検査」の実施医療機関に指定されました。

さらに、平成２５年１月から「通院加療がんセンター」で通院治療を開始し、平成３０年度の患者数は９，４７８人で過去最高となりました。

③　先進医療への取り組み

中央病院では、平成２８年度から最新型の低侵襲手術支援ロボットである da Vinci Xｉを導入し、平成３０年度の手術件数は、前年度の５６件から１５１件と大幅に増加し、患者さんの負担軽減や入院期間の短縮等に繋がりました。

また、細菌、薬剤耐性遺伝子の有無を迅速に特定できる全自動遺伝子解析装置「FilmArray」システムを平成３０年７月、全国に先駆けて導入しました。一般的に細菌等を特定するには最大７２時間必要としますが、当システムでは約１時間で可能となり、効果的な抗菌薬を迅速に患者さんに投与できるようになりました。

④精神科救急、児童思春期精神科、重症通院患者への医療の充実

北病院では、県の精神科救急医療体制の常時対応型病院として、救急患者を受け入れ、治療を行っています。

また、県内唯一の児童思春期病棟を持つ病院として医療需要に応えるため、平成３０年１２月からは、児童思春期病床を２０床から２３床に増床しました。

さらに、本年４月には、地域で生活する重症通院患者に適した医療を提供するため、訪問看護ステーションを設置し、業務を開始しました。

⑤　世界標準を目指す若手医師集団の育成

平成３０年度からスタートした新専門医制度において、当機構では、「内科」「外科」など６つの領域で基幹施設として専門研修プログラムを有し、平成３０年度は内科など計１２名、平成３１年度は計１４名の専攻医を採用し、若手医療従事者の確保を図りました。

今後も、地域のみならず、世界で活躍する多くの医師の育成に取り組んで参ります。

県立中央病院及び県立北病院は、県の基幹病院として、先進医療を取り入れながら、職員一同“早くきれいに治す”を合言葉に、患者さんが一日も早く元気な姿でご家族の元にお帰りになれるよう取り組んで参る所存です。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。